

## 千葉大学工学部入学者受入れの方針

### 1 千葉大学工学部の求める入学者

現代社会では、豊かな暮らしを目指して効率性や利便性を追求するだけでなく、人と環境にやさしい配慮も求められています。工学部では、工学教育の伝統的な専門性を尊重しながらも、その枠を超えて互いの連携・融合を図ることにより、常に、広範な社会的要請に応えられる専門教育システムの確立に努めています。そして、「なぜ」を問い、「何をなすべきか」を考え、「いかにして」を構想し実践できる工学技術者・研究者の育成を目指します。

私たちは、工学を「豊かな人間社会の構築を目指す実践の学問」と考えています。社会と環境を支える技術者・研究者を育成する工学部では、

1. 「なぜ」を問う好奇心・探究心
  2. 「何をなすべきか」を主体的に考える力
  3. 「いかにして」を構想し、実践する力
- を修得することに、興味と資質を有する人材を求めます。

### 2 入学者選抜の基本方針

本学部の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施します。

#### 1. 一般選抜

##### (1) 前期日程

大学入学共通テスト、個別学力検査等の成績および調査書の内容を総合して評価します。

##### (2) 後期日程（デザインコースおよび物質科学コースは除く）

大学入学共通テスト、個別学力検査等の成績および調査書の内容を総合して評価します。

#### 2. 特別選抜

##### (1) 総合型選抜

###### ①デザインコース

第1次選抜では、提出された調査書、予め与えられたテーマに沿って作成された論述課題及び試験第1日目に行う専門適性を判定する課題の内容を総合的に評価し、第1次選抜合格者を決定します。第2次選抜では、第1次選抜合格者に対して、試験第2日目に課題説明を含めた面接を行い、それらの結果からデザインコースで学ぶための資質と適性を総合的に評価し第2次選抜合格者を決定します。第2次選抜合格者のうち、大学入学共通テストで指定する教科・科目の総得点（配点合計）が概ね70%に達した者を最終合格者として決定します。

###### ②物質科学コース

###### (ア) 方式I

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）活動等の課題研究で優れた成果をあげたものには、個別学力検査に代え、当該課題研究に関する発表等を含めた面接を行い、数学・理科の基礎的な資質・能力、自己表現力、熱意などを総合的に評価します。また、大学入学共通テストの成績で、指定する教科・科目の総得点（配点合計）が概ね70%に達した者を最終合格者として決定します。

#### (イ) 方式Ⅱ

著名な国際科学コンクールの日本代表またはそれに準ずる成績をおさめたものには、個別学力検査に代え、受賞した研究に関する発表や口頭試問を含めた面接を行い、基礎学力、数学・理科の基礎的な資質・能力、自己表現力、熱意などを総合的に評価します。

#### ③情報工学コース

第1次選抜では、提出された書類（調査書、志望理由書、日本情報オリンピック本選の成績または日本情報オリンピック本選参加と同等の情報科学やプログラミング能力を示す書類等）を総合的に評価し、第1次選抜合格者を決定します。第2次選抜では、第1次選抜合格者に対して、口頭試問を含めた面接を行い、第2次選抜合格者を決定します。第2次選抜により決定された合格内定者のうち、大学入学共通テストで指定する教科・科目の総得点（配点合計）が、70%に達した者を最終合格者として決定します。

#### (2) 先進科学プログラム（飛び入学）学生選抜

先進科学プログラムの入学者選抜の基本方針に基づき評価します。

#### (3) 私費外国人留学生選抜

外国人留学生に対して、提出書類、日本留学試験の成績および面接により総合的に判定します。面接ではコミュニケーション能力、学習意欲、各コースの専門分野における広い関心について評価します。また、一部のコースにおいては、日本留学試験に代え、日本大学連合学力試験の成績を利用する選抜も行っています。

#### (4) 3年次編入学

高等専門学校や短期大学を卒業した者および大学に在学中の者などに対して、提出書類、面接及び口頭試問により総合的に判定します。学校長の推薦によるもの（学校推薦）と自分自身をアピールすることによるもの（自己推薦）があります。

### 3 入学までに身に付けて欲しいこと

高等学校で履修した科目（大学入学共通テストで課している科目）について十分に理解できていることが必要です。数学を含む理系科目は工学の基礎となる科目なのでとても重要ですが、国語や外国語も将来、国内外の知見を収集し、成果を発信する上で重要です。論理的な思考で組み立てられた論文や報告書、発表や説明ができなければ、自らの考えを他人に伝えられないので、技術者・研究者としての価値がなくなってしまいます。また、「なぜ」を問い、「何をなすべきか」を考え、「いかにして」を構想し実践する上で、もう一つ重要なこととして、「学ぶ」ことを楽しむ姿勢を身に付けていてほしいと考えています。

なお、工学部では、工学共通の教育に加えて、専門性を深めていくために、9つのコースのうちのいずれかに所属して学習していきます。それぞれのコースで学ぶに当たっては、特に以下のような能力や姿勢を身に付けておくことが望まれます。

建築学コース：建築・都市および社会の動向や芸術文化に関心を持ち、現代の様々な課題に対して意欲的に探究する姿勢。

都市工学コース：持続的で豊かな都市の創造を目指して、探求心と総合的視野を持ちつつ、都市に関わる様々な課題に取り組む意欲。

デザインコース：人間や生活環境全般についての興味や問題意識が旺盛で、絵を描くことやものを造ることによって自分のアイデアを表現する意欲。

機械工学コース：事物や現象から仕組みを物理的および化学的に洞察して数学的に表現する能力、幅広い分野の知識を統合して物事を総合的に捉える能力、ならびに機械工学への興味。

医工学コース：電気電子工学、機械工学、情報工学など幅広い関心を有すること。また、医工学は人の命や健康と福祉に直接的・間接的に寄与しているという意識。

電気電子工学コース：電気電子工学の社会的使命に興味を示し、その科学技術の発展に寄与したいと強く希望する姿勢。さらに、そのための専門的な知識・能力を習得する意欲と、それを支える基礎的素養と能力。

物質科学コース：自然のさまざまな現象や人類の発明・発見について興味を深め、自ら積極的に物質科学における問題を探究するための基礎となる物理、化学および数学の総合的な学力。

共生応用化学コース：化学を中心にした学問領域を学ぶための基礎学力と、将来、化学だけでなく他の分野との境界領域で仕事をするために化学以外の科目にも興味を持って学ぶ姿勢。

情報工学コース：情報工学の基盤である数学、物理の高い能力に加え、情報工学の応用先である他のすべての科目にも興味を持ち、かつ最先端の技術を常に追い求める姿勢。

※令和4年4月より、現行の都市環境システムコースは、都市工学コースに名称を変更します。